

肝炎患者に係る療養対策について

第1 現状と課題

「新しい肝炎総合対策の推進」(与党肝炎対策に関するプロジェクトチーム 平成19年11月7日)では、国内最大の感染症である肝炎について、今後おおむね7年間で、インターフェロン治療を必要とする肝炎患者全てが治療を受けられる機会を確保することとしている。

今後、インターフェロン治療を必要とする肝炎患者が、病態の増悪・合併症等により長期の入院治療が必要となることも考えられ、薬剤費が入院料に包括される療養病棟等の場合は、医療機関等にとって、薬剤費の負担が重い。

第2 論点

インターフェロン治療を必要とするB型・C型肝炎患者に対して、インターフェロン等に係る薬剤費について、入院料の包括外で算定することについて検討してはどうか。

<試算の例>

成人(体重65kg) C型慢性肝炎に対する治療として
ペグインターフェロン(180 μ g)週1回・リバビリン(200mg)1日4錠
を用いた場合の例

一月当たりの薬剤費 約220,000円